

和光病院



だより

VOL.11



「東京都 六義園」 保見 ゆかり

和光病院の使命

「私たちの使命は、加齢に伴う精神と身体の病気で苦しむ人に、必要な医療サービスとケアを提供することです。」
私たちは、誠実さと、公正さと、謙虚さとを、行動の規範とします。

- ・自分たちの使命を誠実に遂行すること
- ・患者さんを経済力や、社会的立場で差別することなく、公正であること
- ・謙虚な姿勢で仕事に取り組み、職業的能力の向上に努力すること



院長挨拶



院長 齋藤 正彦

皆様、いかがお過ごしでしょうか。和光病院は、電力不足が心配された夏を、何とか無事にやり過ごすことができました。病院運営に関する皆様のご協力に心から御礼申し上げます。

現在の日本の病院や介護施設は、ほぼ例外なくエアコンが設置されていて、室温を管理しています。それでも、夏の暑さと、冬の寒さは、高齢者には大きなストレス源となります。和光病院でも、毎年、夏の盛りから秋口にかけてと、厳冬から早春にかけて、体調を崩す患者さんが増え、その結果、病院内で亡くなる患者さんの数が増えます。同じことが、特別養護老人ホームなどの施設でもおこるため、病院内で施設が空くのを待っていないらっしゃった患者さんの転出も多くなります。ご家族懇談会でも毎年お話ししている通り、和光病院のような老人病院の経営環境は非常に厳しく、空きベッドを放置することは、経営上、死活問題だと言っても決して過言ではありません。したがって、この時期、病院では増加する退院の分だけ、入院件数も増え、病院全体が少し騒々しくなります。入院中の皆様

にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、事情をご理解いただき、ご寛恕のほどお願い申し上げます。

言うまでもなく、病院の経営が厳しいのは、医療保険財政全体が非常に厳しいためです。そうした中で、長期入院を減らすことは、国全体の医療費を削減するために、最も手っ取り早い方法の一つです。そのために、厚生労働省は、2年に一度の診療報酬改定のたびに、短期入院と長期入院の報酬の差を大きくし、病院が長期入院患者を抱えないように誘導しています。たとえば、和光病院の場合、入院が61日以上になると、診療報酬が一日当たり2700円減らされます。一か月で患者さん一人につき7万円強の減収です。極端な話、260床を、短期入院だけで運用するか、長期入院だけで運用するかで、年間の収入におよそ2億円の差が生じてしまいます。

認知症の患者さんが、和光病院のような病院で長期療養を余儀なくされるのは福祉施設が質、量ともにニーズを満たしていないからです。私たちは、厚生省が作った鑄型に患者さんやご家族を無理やり押し込むのではなく、患者さんやご家族のニーズに合わせたサービスを提供したいと考えています。そのために、積極的な精神医学的治療を必要とする急性期の短期入院と、症状が安定した患者さんの長期療養入院を並行して受け入れられるような体制を作ろうとしています。

それを可能にしているのが、室料差額です。差額をお支払いいただける患者さんについては、長期療養をお引き受けし、お支払い頂けない患者さんには早期の退院、転院をお願いするのは、まさに地獄の沙汰も金次第を地で行くような話で、医療従事者としては心苦しい限りなのですが、現在のところ、これ以外に、和光病院を頼りにしてくださる患者さん、ご家族の、二つの異なったニーズに同時に応える方法はありません。和光病院の医局、看護・介護を始めとする現場スタッフは、厚生省の基準に比較して手厚い配置になっています。こうしたことが可能になるのも、病院の経営が安定しているからです。

なお、和光病院で長期療養を希望される患者さんはたくさんいらっしゃいますし、病院の経営は、ベッドが回転すればするほど余裕ができます。特別養護老人ホームのような長期介護が可能な施設への入所待機は継続していただきたく存じます。いったん、介護施設に退院なさっても、医療上の必要が生じた場合には、優先的に和光病院への再入院をお引き受けいたします。



副院長挨拶



副院長 浅見 勉

本年8月より、斎藤院長より指示があり副院長を務めております。

前任の白濱医師が、銚子市立病院の理事長になり、当院では非常勤として勤務しております。斎藤院長、白濱医師を始め多くの職員の指導を仰ぎながら職責を全うしたいと考えております。

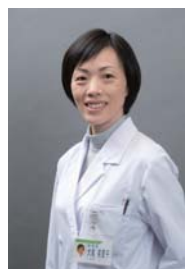
今春以降、大地震、津波および原発事故などすべての国民がおそらく予想すら困難であった出来事に、日本中が翻弄され、個人として組織としてどのように対応してゆくことが出来るのか考えさせられました。病院は一見すると安全な場所と考えられますが、基本的には色々な突発事故、疾患の急性増悪、またその他の急変などもおこりうる比較的リスクの高い場所でもあります。入院されている方に關しての多方面からの情報を集め、的確に判断しその時点で最善と思われる対応をご本人、ご家族に提供して、病状の推移に速やかに、且つ穏やかに対応できる努力を続けたいと思っております。

私も縁あって和光病院に勤めて約6年になります。和光病院が当初より目標としてきております「拘束などのない認知

症治療・介護」がいかに大変であるか、日常的に看護、介護業務に携わる人々や間接的にかかわる多くの職員の苦労は極めて大変なものでありストレスも非常に強いものだと理解しております。しかし誰かが、どこかの病院がやらなければ変わっていきません。転倒し骨折など起こした方に接する際にも、「拘束などが骨折の防止になるのか?」「拘束した方がよかったのか?」色々悩む問題です。しかしながら『自分の受けたくないようなものを押し付けたくない』との極めて単純な原則に沿って確信を持って対処してゆくべきだろうと考えています。粘り強さと慎重さをもって、気まぐれの思いつきや考えにとらわれず注意深く事実、例証を積み重ねてゆく必要があります。

認知症重度の方にとっては人生の中でも極めて重要な時期を病院で過ごすことを余儀なくされる訳です。発症前は、全く考えていなかった状況であると思われる。身の回り動作など多くを他人に依存しなければならぬ訳です。このような心情を推し量るとき、いかに個人の尊厳を傷つけずに対応できるかが、私たち医療従事者に問われております。ご本人やご家族がこの病院でよかった、また働く人すべてが、誇りを持って和光病院でよかったといえる病院を目指し少しでもお手伝いできたらと思っております。

診療技術部長挨拶



診療技術部長 犬尾 英里子

診療技術部長に就任致しました犬尾です。どうぞ宜しくお願い致します。診療技術部には医局、リハビリテーション室、薬局、放射線科、栄養科が属しています。医局では精神保健指定医7名、精神科後期研修医1名、内科医2名、皮膚科医1名、整形外科医1名の体制で診療にあたり、全ての入院患者さんには精神科・内科それぞれ担当医がおります。診療上のご質問はいつでもお受け致しております。リハビリテーション室では9月より作業療法士・心理士の担当病棟を変更しました。新しい経験を積むことで様々な認知症患者さんに対し沢山の引き出しを持つて対応できる事を目指しております。薬局では新しく新里薬剤師を迎え、放射線科では患者さんの対応に長けた技師が手際よく検査を行っております。栄養科では管理栄養士2名がかき氷や焼き芋など季節感のあるイベントの他、五感で楽しんでいただけるようなメニューの改善に取り組んでおります。それぞれの専門性を磨く事で認知症専門病院としての質の向上に取り組んで参りたいと思っております。

接遇委員会

看護部長 藤森 美栄



日頃の職員の接遇には、ご満足いただけていますでしょうか？

当委員会は、職員の接遇を向上させ医療サービスの向上を図ることを目的に、昨年4月に設置された委員会です。各部門から集まった18名のメンバーが中心となり活動しています。開始して2年目ですが、その取り組みの一端をご紹介します。

【主な活動内容】

■ 毎月の「接遇目標」を各部署に配布して、目標に沿った取り組みをします。毎朝、部署毎に目標を唱和することで意識を高め、委員会では、目標に対する評価や問題点等を持ち寄り話し合いをしています。『身だしなみチェックリスト』も作成し活用中です。

■ 平成23年3月1日から3月11日の間、ご家族対象にアンケート調査を実施しました。内容は、あいさつ・言葉遣い・応対の仕方・話しかけやすい雰囲気・身だしなみ・プライバシー配慮・電話応対の7項目と自由意見記載で、79名の方々にご回答いただきました。すべての項目について、概ね良好の結果をいただきましたが、「やや悪い・悪い」



という回答もあり改善に努めております。細部の結果は、既に病院玄関に掲示しましたのでご覧いただいた方も多いと思います。

■ DVD「病院職員のための接遇マナー講座」を購入し、全職員が視聴しました。また、外部講師による接遇研修を企画し、55名が参加しました。研修会は今後も計画しており全職員が受講する予定です。

以上のような取り組みをしていますが、接遇の良し悪しは自分ではなく、相手が決めることです。今後、接遇向上に向けて活動してまいりますので、お気づきの点がございましたらご意見をお願い致します。

中庭・屋上庭園



事務長 町野 譲



当院1階の中庭には、大きなケヤキの木が7本自生しております。かなり枝が伸びておりましたので、5年ぶりに、業者に依頼し2日間にわたり剪定いたしました。枝をかなり切り落としましたので中庭が明るくなっております。その結果下草の伸びも目立つようになつた為、シルバー人材センターにお願いし、除草等の作業をしていただきました。

7階の屋上庭園も同時に、草木の剪定を行っていたら、本当に綺麗になっております。今年は、屋上庭園の葡萄も甘く実り、美味しくなっております。是非、探し出してみてください。

中庭・屋上庭園には、様々な草木が植わっております。屋上からは、スカイツリーも遠くに見えます。



少し寒くなると天気がいよいよ日には富士山も望めます。ご来院いただきました際には、是非ゆっくり散策されてみてはいかがでしょうか。



かき氷



夏といえばお祭りや花火大会などのイベントがありますが、当院では8月1日から各病棟に出張かき氷を行いました。アクティビティー委員会の発案にて、リハビリテーション室、病棟スタッフ、栄養科が合同で実施しました。今年で5回目となりますが、患者さんからは「冷たくて美味しい」「懐かしいわ」と好評をいただいております。



栄養科 柳川 三鈴

昔ながらの手動式かき氷機を使用し、男性スタッフが中心となり一所懸命氷を削ったところに、五種類のシロップからお好きなものを患者さんを選んでいただいております。皆さん行列に並び、「いちごみるく!」「メロン!」と目を輝かせながら選ばれていました。また、シロップとしては珍しいバナナ味も変わり種でお出ししており、患者さん、スタッフから人気がありました。

今後とも患者さんが昔を思い出すようなものを、季節のレクリエーションに取り入れていきたいです。



流しそうめん

「流しそうめんやりたい。」とスタッフの一言からこの企画は始まりました。3年前の夏、作業療法士の発案で2名のペットボトルをつなげ、流しそうめんの竹に似せて作り、企画を実現することが出来ました。患者さんには「流しそうめん初めてやったよ」と、とても好評でした。



栄養科 小坂 由衣

その年の秋、翠会学会で、他職種との連携というテーマでこの企画を発表したところ、同法人の行橋記念病院（九州）の看護部長に、「竹を用意しましょうか?」と声をかけてもらいました。まさか本物の竹で流しそうめんが出来ると思ってもせず、とても感激しました。

一昨年の夏から、本物の竹で流しそうめんを行うことが出来ました。その竹に患者さんもスタッフも「すごい!」と感動していました。普段箸を使わない患者さんや、食欲のない患者さんでも、上手にそうめんをすくい、皆美味しそうに召し上がっていました。それから毎年竹を送ってもらい、夏恒例の行事となっています。今後も行橋記念病院の協力を得て、企画を続けていきたいと考えています。



喫茶コーナー



6階病棟 山口 喜世美

和光病院には、喫茶室という場所がありません。かねてより、「ちよつとしたお茶を楽しむ場所があれば良いのに」といった意見が聞かれていました。

そこで、アクティビティー委員会で7階多目的ホールを使用した喫茶コーナーを企画しました。患者さんご自身で数種類のメニューから飲み物とお茶菓子をを選んで頂き、喫茶店風に仕上げた空間で喫食して頂く。いつもとは違った時間を楽しんで頂くという企画です。



病棟のダイニングとは違い、普段あまりお話をされない患者さんとの会話も弾みました。昭和の出来事を写真で紹介した雑誌を読み、蓄音機に似せたレコードプレイヤーから流れる音楽に耳を傾けながら、コーヒーの香り漂う穏やかな時間の中で喫食を楽しみました。一緒に参加されたご家族からも「楽しかったです」とご感想を頂きました。今後も不定期ではありますが続けて開店する予定です。皆さまのご来店をお待ちしています。

第5回和光病院公開講座

認知症の理解とケア

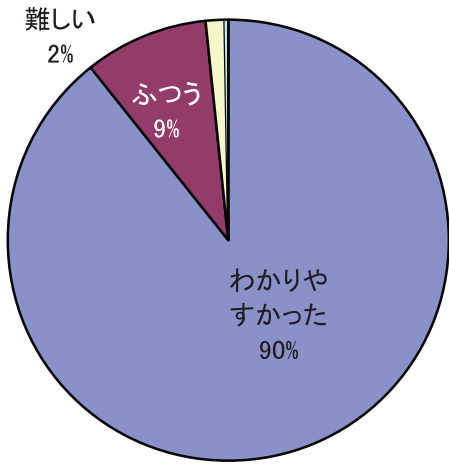
「第一線の認知症医療」

事務長 町野 譲

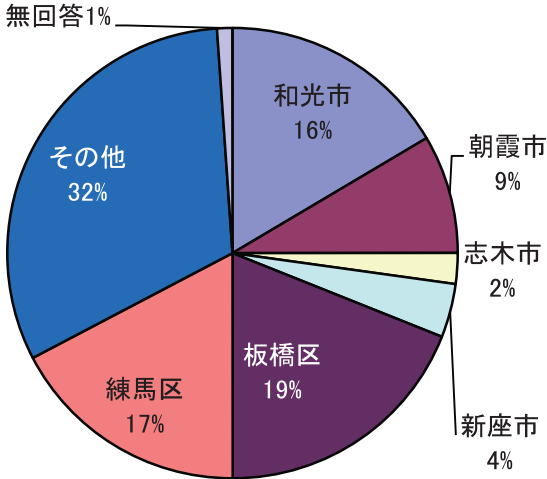
本年9月9日に、当院 斎藤正彦院長を講師として第5回和光病院公開講座「認知症の理解とケア」を開催いたしました。会場は板橋区地域センター（アクトホール）をお借りし、和光市・板橋区・練馬区・朝霞地区医師会の後援をいただきました。

本講座もお蔭様で回を重ねるごとに参加者が増え、昨年の参加者は321名でしたが、今回は405名の方々にご参加いただきました。さらに、アンケートにも多数のご協力をいただき（回収率80%超）重ねて御礼申し上げます。アンケート結果をグラフにいたしました。ご参照ください。

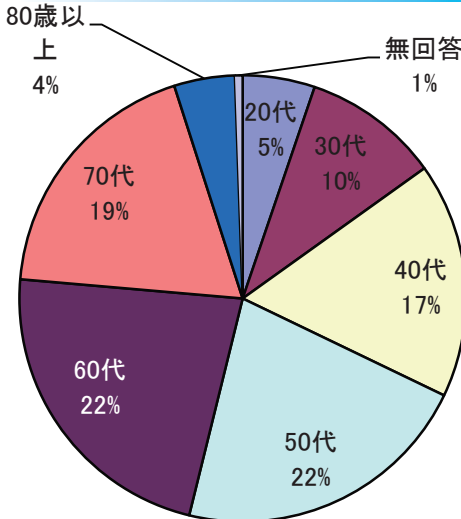
グラフ①「わかりやすさ」



グラフ②「住所別」

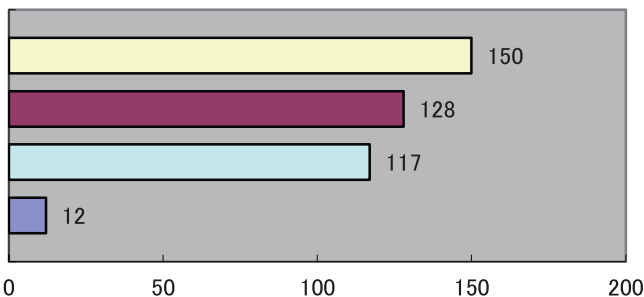


グラフ③「年代別」



グラフ④「参加の動機」

- 医療・保健・福祉関係の仕事に携わっている
- 家族に認知症患者がいる
- 認知症に興味・関心がある
- その他



グラフ①「わかりやすさ」のアンケート結果では90%の方に「わかりやすかった」と答えていただきました。ただし2%の方の「難しかった」という回答も真摯に受け止め、今後の参考にしていきたいと思えます。

グラフ②「住所別」のアンケート結果では、板橋区、練馬区、和光市、朝霞市、新座市、志木市の順で、近隣の方が中心でしたが、その他遠方からお越しの方もいらっしました。当日は残暑が厳しい中、多数のご参加、誠にありがとうございました。

グラフ③「年代別」のアンケート結果では20代から80代の方まで幅広い世代の方が参加されていたことがわかり、次の参加理由にも大きく起因することがわかります。

グラフ④「参加の動機」のアンケート結果からは、仕事で認知症患者さんに関係のある方や家族に認知症患者さんがいる



講座の様子



ほぼ満席の会場

方、認知症に興味関心がある方が圧倒的に多く、やはり認知症に関する世の中の関心の高さが伺え、当院への期待の高さをひしひしと感じます。

来年度も開催予定です。講演内容等でご希望がありましたらご意見をいただければ幸いです。

改修工事

3月11日の震災による当院の建物等の被害状況は広報誌夏号でもご報告させていただきましたが、

①外壁モルタル

②病棟廊下壁ボード

③浴室内のタイル

右記箇所にて亀裂が入っ

ていました。建物の躯体自体には、損傷

はありませんでした。損傷箇所①につき

ましては、8月に完了しております。病

棟内の②・③の工事につきましては、8

月の土曜・日曜を利用し、各病棟ごとの

工事でしたので、工事期間は一ヶ月間を

要しましたが、こちらも完了しております。

工事の際には、ご不便をお掛けいたし

ましたが、ご理解・ご協力をいただきあ

りがとうございました。

また、節電への取り組みですが、病棟

や病室においては患者さんの体調、生活

に影響がありますので、照明を落としたり、

冷房温度を上げたりすることなく、

病棟以外の箇所での節電で、ご不便をお

掛けいたしました。今夏を乗り切ること

が出来ました。今後も地域のためにお役

に立てるよう努力してまいりますので、

よろしくご鞭撻のほどお願い申し上げます。



病棟の床の剥離清掃について

病棟の床清掃は、業者に委託して毎日実施しておりますが、半年くらい経ちますとどうしても、日々の清掃だけでは、落としきれない汚れがたまり、床がべとつき始めます。このべとつきが患者さんのつまづきや、転倒を招く恐れがあります。

それらを解消するため、床についております汚れをワックスごと薬品を用いて全て剥離し、床素材まで清掃し、再度ワックスを塗る作業を実施しております。



今年度も各病棟ごとに7月～9月の3ヶ月間で完了いたしております。実施日には、患者さんの安全には充分留意して作業させていただきました。ご家族の方にも当日はご不便をお掛けいたしました。ご協力頂き誠にありがとうございました。今後も定期的に剥離清掃の実施を行いますので、よろしくお願い申し上げます。

今後のご案内

毎年、恒例となっているイベントを今年も開催致します。ご家族様の参加もお待ちしております。

◆焼き芋

11月15日（火）を予定しています。

各病棟、順番に回って焼き芋をお配りします。焼き立てのさつま芋を患者さんに召し上がっていただき、有意義な時間を過ごしていただければと思います。

◆餅つき

12月20日（火）を予定しています。

これまででは年始に行っていました。「お正月の準備として餅つきをやった」と患者さんから伺い、今年は年末に開催することに致しました。



翠会ヘルスケアグループ人事異動

この度、10月1日付けで人事異動がありましたので、お知らせいたします。

現和光病院事務長 町野譲は、翠会ヘルスケアグループの「老人保健施設蓮根ひまわり苑」へ異動いたします。

新事務長として、同グループ「社会福祉法人翠生会」事務長の萱沼幹康が就任いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療の流れ

外来受診及び入院相談、病棟見学を希望される方は医療福祉相談室048-450-3311(代)へご連絡ください。相談員がお話を伺いご予約をお受けします。

【受付時間】

月曜日 ~ 土曜日 9:00-16:00

外来診察日・担当医

	月	火	水	木	金
午前診療 (09:30 - 12:00)	—	斎藤 正彦	帖佐 隆	秋元 和美	松崎 尊信
午後診療 (13:30 - 16:00)	井藤 佳恵	斎藤 正彦	帖佐 隆	秋元 和美	松崎 尊信

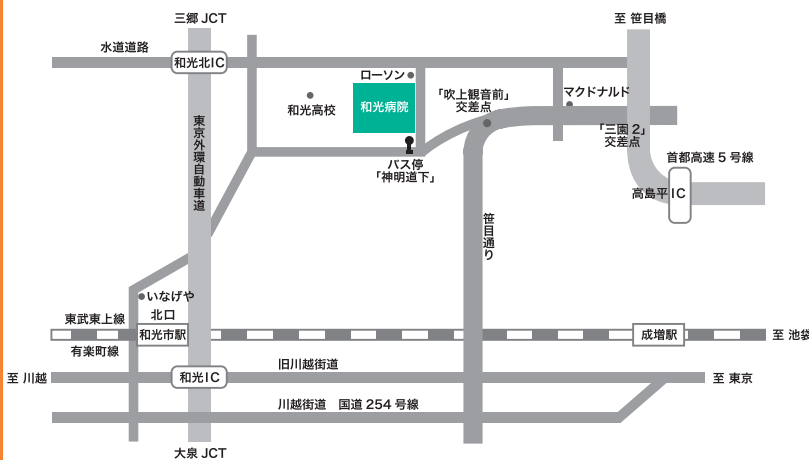
※完全予約制となっています。

交通のご案内

東武東上線、有楽町線、副都心線「和光市駅」北口より東武バス(和光高校循環)にて約10分、「神明道下」下車徒歩3分又は「福祉の里入口」下車徒歩3分。

東武バス時刻表(H23/10/01現在)
「和光市駅北口発 和光高校循環」

時	月～金曜日					土・日曜・祝日			
8	5	15	25	38	48	14	30	45	59
9	0	11	28	53		13	30	44	
10	16	40	55			0	15	28	43
11	10	40	55			0	14	28	43
12	10	31	47			17	32	47	
13	17	32	47			2	17	32	47
14	2	17	31	47		2	17	32	
15	2	17	47			2	17	32	47
16	1	18	35	48		2	17	33	46
17	4	19	40	55		3	19	34	50
18	14	28	46			11	27	42	57
19	2	15	30	46		11	35	57	
20	10	28	40	56		19	40		
21	11	28	42	57		3	26	48	



本号で、新副院長と新診療技術部長が、就任に際し、患者さん及びご家族に満足していただける病院を目指すと、抱負をしっかりと語り、職員を始める読者皆さんの当院に対するさらなるご協力をお願いいたします。

東日本大震災(地震、津波、原発問題)はまさに歴史的に大きな災害でありました。まだまだ終息宣言も出せず、また出口も不透明なまま半年以上が過ぎ、その傷跡が生々しい状況です。そんな中、9月初旬には台風12号が紀伊半島を襲い、道路は寸断、土砂ダムの決壊(二次災害)が心配され、自然災害の怖さを見せつけております。「治山・治水」の重要性を再認識させられる毎日です。

読者の皆さんには健康管理に十分気をつけられ、ご自愛下さいませように。

編集後記

顧問 白濱 龍興